

研究課題の名称

高齢者に対する活性型ビタミン D3 製剤の使用実態及びカルシウム値測定頻度に関する現状調査

研究の目的及び意義

活性型ビタミン D3 製剤は、骨粗鬆症に対する標準治療の一つのため汎用されている。副作用として高カルシウム血症や急性腎不全が報告されており、定期的な血清カルシウム値の測定が望まれる。

特に腎機能障害を有する患者への活性型ビタミン D3 製剤の使用は高カルシウム血症のリスクの上昇に繋がることが報告されている。そのため、生理機能の低下した高齢者への投与においては、その投与の意義と副作用に対する頻回な評価が必要である。しかし、臨床現場では高齢者に対して血清カルシウム値の定期的な測定が実施されないまま、活性型ビタミン D3 製剤が漫然と投与されることが散見される。そこで、高齢者に対する活性型ビタミン D3 製剤の使用実態および血清カルシウム値の測定頻度に関して調査する。

研究対象者の選定方針

2018 年 1 月 18 日から 2018 年 1 月 31 日 (計 14 日) の間に、洛和会音羽病院の外来診療で活性型ビタミン D3 製剤 (アルファカルシドール、エルデカルシトール) を処方された 75 歳以上の患者

研究予定期間 承認日 (2018 年 5 月 18 日) から西暦 2018 年 7 月 1 日